

# 明るく安全で 地球にやさしい 難民キャンプへ

前号では、「教育」が難民の子どもたちの未来を切り開く糧となり、大きな財産であることを述べました。しかし、アフリカの多くの難民キャンプの実状は、生活の基盤となるインフラが十分ではなく、明かりもない、衛生状態も劣悪な環境で、教育を受けるのも大変な状態です。そんな過酷な状況の難民キャンプに、太陽光による発電システムが整ったなら……。

今号は、今新たに提案されている難民キャンプにおける生活環境改善への取り組み等について、ご紹介いたします。

## 電気がないことで起る問題

現在、アフリカには、電気の通っていない状況で生活している難民キャンプが70か所以上あります。そのため、日々の炊事用の薪集めに、週の4日を費やし、遠く離れた場所まで薪を集めに行かなければなりません。

薪を集めに行くのは、主に女性や子どもたちの仕事とされており、特に女性たちは(中には幼い少女さえも)その道中にレイプや性的暴力の被害に遭うことも少なくありません。また、こうした過酷な労働のために、子どもたちは学校へ通う時間がなく、学校を中退する率も高まっています。仮に、学校に通うことができたとしても明かりがないため夜は暗くて勉強をすることができません。

さらに、先の見えない闇は人々の心を荒廃させ、フラストレーションのたまった若者たちが、夜道をうろついたり公共物を破壊したり、犯罪に手を染めたりするため、キャンプ内の治安が悪くなるなど、次々と負の連鎖を生み出しています。また、本来一時的な避難場所であるはずの難民キャンプでの生活が長引けば長引くほど、そこで使用される燃料の薪採取のために周囲の森林伐採が進み、それがやがて回復不可能な環境破壊を引き起こすという問題にまで広がっています。

このような状況下では、人々の暮らしを改善する、もつと根本的な解決策を急がなくては、何も物事が好転していきません。 © UNHCR



▲太陽光発電によるランプ。

夜、子どもが宿題をするために明かりをつける母。この明かりが室内を、また人々の心を明るく照らす。

© UNHCR/S.Nambu



▲太陽光発電による街灯。日中にエネルギーを貯め、夜に光りを提供する。

## 新技術がもたらす光明

しかし、そんな難民キャンプに太陽光発電を利用した電気が通ったとしたらどうでしょうか。たとえば夜のキャンプの敷地内に街灯がともされたら。また、各テ

トにランプがあつたなら……。暗闇に明かりがあることで人々の目も行き届くようになり、公共物の破壊や性的犯罪も激減することでしょう。ランプがあれば、子ども



▲太陽光発電による街灯。日中にエネルギーを貯め、夜に光りを提供する。

たちが夜、学校で出された宿題をしたり、本を読んだりすることもできるようになるでしょう。また、コミュニティで集会を催す機会が増えるなど、人々の無気力な生活サイクルを打破することにもつながります。

もたちが薪を集めに行く回数も、1週間のうち1日で足りることにになり、学校へ通うための時間が生まれます。また、森林伐採による環境破壊を食い止めることもできます。

こうした新しい技術支援が、2010年1月からケニアやチャドの難民キャンプにおいて始まっており、具体的には、太陽光パネルによる給水や水の浄化、太陽光発電による街灯やランプの設置、最新式調理ストーブの導入という形で進められています。その結果、キャンプ内の、特に女性の安全が守られるようになったという報告がなされています。

UNHCRでは、これまでもさまざまな調理ストーブを導入してきましたが、厳しい自然環境の難民キャンプでは、使用に耐えるものがありませんでした。その点、今回新たに導入された改良型のもは、実際に使用した難民たちの評判もよいようです。また、薪の使用量が減少することで周囲の森林が守られれば、空気も浄化され、彼らの健康促進にもつながります。

ちなみに、太陽光発電による街灯は1基約8万円、ランプが1個約3500円、改良型調理ストーブは1つ約5000円で支給されています(1ドollarを85円と換算しています)。これからの難民支援とどういふのは、環境・キャンプ地の周辺住民、受け入れてくれた国、ひいては地球——にも配慮したものが求められていると言えるでしょう。

※ 国連UNHCR協会は、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の日本国公使館(東京都港区)にて

## ダダブ難民キャンプ 「CampBeat」最新情報

### 難民アーティストの 楽曲配信中!

本連載やホームページでも開始当初よりずっと応援してきた、ケニア・ダダブ難民キャンプの学校再建プロジェクト「CampBeat」。最も多くの投票数を獲得し、見事1位で優勝した「ゴールデン・ブルー・ガールズ」をはじめ、2位の「パットマン・ソルジャーズ」、3位の「アハメド」53組の楽曲が、昨秋から国連UNHCR協会のホームページで視聴できるようになりました。プロによるボイストレーニングやアレンジ等により、いっそうパワーアップした彼らの歌声を、ぜひ、お聴きください。

なお、教職員共済生協では、学校再建の実現へ向け、今後も引き続き応援をいたします(当プロジェクトへのご寄付に関する詳細は、22頁をご覧ください)。



ゆず  
北川悠仁さんからの  
メッセージ

(© セーニャ・アンド・カンパニー)

「2年前に訪れたキャンプでの約束を、ようやく一つの形にすることができました。応援してくださいましたすべての皆さんに心からの「ありがとう」を伝えたいです。僕も最後まで責任をもって見届けていきます。そして、これが一過性のものにならないよう、今後も活動を続けていきたいと思っています」

国連UNHCR協会ホームページ

<http://www.japanforunhcr.org/>